

一六世紀のイエズス会士の著作を通してみた日本

——私の日本研究——

ヘスス・ロペス・ガイ

Jesus López Gay, S. J.

随分と昔のことであるが、私は東洋におけるキリスト教拡大の歴史を担当する教授職に就くために博士論文を執筆しなければならなかった。私は文書史料による研究を始めたが、日本に関する未刊の文書史料に残されている情報量に驚かされた。そうした文書史料は、主としてローマ・イエズス会文書館やマドリードの国立歴史文書館に所蔵されている。私の研究においては、シュールハンマー、シュツテ、ヴィッキ神父のような最初の世代の研究者達が指導してくれた。ロンドンに赴いた際には、チャールズ・ボクサー教授に親しく教示を受けた。私は今でも彼らに感謝している。私が出版を始めた時には、大阪外国語大学で教鞭を執っていたアルバレス・タラドリス教授の力添えが私を支えてくれた。

キリスト教の拡大という問題に入る前に、私は、日本の文化、習慣、宗教についての興味深い文書に出会った。これらの文書史料には、既に出版されたものもあるが、その価値を失ったわけではない。私が出版した最初の著作は、日本人の婚姻についての研究だった。⁽¹⁾ アルカラの図書館が所蔵するヒル・デ・ラ・マタによって書かれた論文を、私はアジュダ図書館で見付けた一六五六年執筆のアントニオ・デ・クアドロスの裁決やヴァリニャーノの他の裁決によって補完した。日本人独特の婚姻契約を理解することの難しさを前にして、宣教師達は、婚姻の意図を知るために二〇〇組の調査を行なった。そして、同時に、婚姻儀礼に付随する一連の典礼を提示している。

コレジオ・ロマーノの教授バスケスは、確かに日本の宣教師達によって諮問されている。彼は、宣教師達が直面していた「高利^{ウスラ}と高利貸し」を始めとする良心問題に一連の回答を与えた。そうしたことは、その当時の日本がポルトガル人との新たな交易や、中国人や朝鮮人との従前からの交易に開かれていたことを反映している。「戦争の法」については、どの程度まで將軍達は日本の習慣に従って敵を殺害したり、彼らを奴隷としたり、降伏者の戦利品を獲得することができるとかというものであった。そして、これらのテーマで最も興味深いのは、新たに改宗したキリスト教徒が仏教や神道といった日本人の数多くの宗教的祭祀に参加することについてであった。バスケスは優れた歴史感覚でこの点を開示している。私は、この文書を『モヌメンタ・ニッポニカ』に発表した。⁽²⁾

イエズス会士の著作に見られる日本の宗教についての情報は非常に豊富であるが、彼らはそうした情報を当初から学ぼうとしている。禪宗は、最も高く評価された仏教の宗派である。ザビエルが「親友」と呼んでいる鹿児島³の僧侶忍室と対話することで仏教の方法を会得したことを私達は既に知っている。続いて、イエズス会士達は、仏教寺院の外部（在家）組織と儀礼を研究し、取り込もうとした。ジョアン・ロドリゲスは、茶の儀礼の文化的意味を探求しながら、「茶の作法」についての書物を著した。当時、千利休がこの儀式を完成させていたのであるが、彼の二人の主要な弟子の内、六人は高山右近のようなキリシタンであった。

一六世紀のイエズス会士の著作は、和歌、俳句などの韻文のような一六世紀の日本の文学的技法、そして時には音楽的技法を知るための手掛かりとなる。一五八〇年一〇月から一二月にかけて、日本におけるイエズス会による最初の教育機関が開設されたが、当初からイエズス会士達は布教に多数の書籍を携えてきた。私は最初の図書館の再現を試みた。⁽³⁾ 一五九〇年、イエズス会士は「印刷術」を日本に齎し、間もなく日本語

で書籍が印刷された。それは、文化的に意義深い出来事であった。私達は、これらの印刷物の多くを把握しており、今日どこに伝存しているのかも知っている。

日本へのキリスト教の浸透というテーマを研究するために、私は史料を広く探し求めた。その成果として五冊の研究書を出版することができた。その内の三冊は、井手勝美氏によって日本語に翻訳されている。その一冊では、宣教師達が日本に接近する方法を見ようとした⁽⁴⁾。第二冊では、「洗礼の志願者」^{カテクメナード}を扱っており、第三冊では、日本布教における典礼を論究した⁽⁶⁾。第三は、疑いなく最も興味深いものであり、宣教師達は、典礼の独自の儀式に少なからぬ仏教の典礼を取り入れたのである。私は、こうした観点から仏教の研究も行なった。典礼は、多数の日本人を教会に、即ちキリスト教に引き寄せた。日本人は、キリスト教の典礼、具体的には故人の崇拜に関する典礼に感嘆していたのである。

カテクメナードの紹介において、宣教師達は上流階級から着手している。多数の大名の改宗は、日本において社会構造が如何なるものであったかを示す例となっている。私達は、少なからぬ大名について、その伝記を執筆することができただけの文書を持っており、アルカディオ・シユワード教授が執筆した大友宗麟の伝記のように、幾人かのものを見ることができる。

在俗の多数の日本人は、日本の改宗に積極的に参加した。同宿のような在家の仏教者は、宣教師達に新たな方向を提示した。布教活動において、在俗の日本人は、外国の宣教師にもまして働いたのである。ところで、私は、研究においては常に原文書を利用することを心掛けてきた。それらの多くは、今もなお出版されていない。私は、日本の歴史や習慣についての実に豊富な情報を含むこれら未刊の文書史料の研究をすべての日本人に強く促したいと思う。

主要著作

- (1) Jesús López Gay, S. J., *El Marmonio de los Japoneses*, Roma, 1964.
- (2) Jesús López Gay, S. J., "Un Documento Inédito del P. G. Vázquez (1549-1604) sobre los problemas morales del Japón," *Mormonia Nipponica*, XVI, 1960-61.
- (3) Jesús López Gay, S. J., "La Primera Biblioteca de los Jesuitas en el Japón," *Mormonia Nipponica*, XV, 1959-60.
- (4) Jesús López Gay, S. J., "La Preevangelización en los primeros años de la misión del Japón," *Misionaria Hispanica*, 19, 1962. <邦訳>ロベス・ガイ(井手勝美訳)『初期キリシタン時代の準備福音宣教』(キリシタン文化研究会、一九六八年、改訂版、一九八〇年)
- (5) Jesús López Gay, S. J., *El Catecumenado en la Misión del Japón del S. XVI*, Roma, 1966. <邦訳>ロベス・ガイ(井手勝美訳)『十六世紀キリシタン史上の洗礼志願期』(キリシタン文化研究会、一九七三年)
- (6) Jesús López Gay, S. J., *La Liturgia en la Misión del Japón del Siglo XVI*, Roma, 1970. <邦訳>ロベス・ガイ(井手勝美訳)『キリシタン時代の典礼』(キリシタン文化研究会、一九八三年)
- (7) Jesús López Gay, S. J., *La Mística del Budismo: Los monjes no cristasianos del Oriente*, Madrid, 1974.